平成24年度　八戸市の財務諸表（市全体）

概要版

市では普通会計で行っている事業のほかにも、交通事業や病院事業、下水道事業、国民健康保険事業など、市民の皆様と密接な関わりをもつ事業を行っています。市の財政は普通会計のみで成り立っているわけではないため、八戸市全体のストック情報やコスト情報を把握するためには、企業会計や特別会計までを対象とした市全体の財務諸表を用います。なお、普通会計から各会計への出資金・繰出金等は内部取引として相殺消去しています。

市全体の範囲

市全体

普通会計

一般会計
- 土地区画整理事業特別会計
- 学校給食特別会計
- 公共用地取得事業特別会計
- 霊園特別会計

- 自動車運送事業会計
- 市民病院事業会計
- 国民健康保険特別会計
- 魚市場特別会計
- 下水道事業特別会計
- 駐車場特別会計
- 中央卸売市場特別会計
- 農業集落排水事業特別会計
- 介護保険特別会計
- 南郷診療所特別会計
- 住宅用地造成事業特別会計
- 後期高齢者医療特別会計

市全体のバランスシート

普通会計に属さない会計を含めて市全体を一つの行政サービス実施体として、資産や負債のストック情報を網羅した財務諸表が「市全体のバランスシート」です。

資産　4,661億円 ←4,649億円（12億円増）

市全体の財産所有の内容と金額です。

【内訳】

公共資産	4,183億円	←4,199億円（16億円減）
道路、公園、学校、庁舎、病院、下水道など		
投資等	250億円	←251億円（1億円減）
基金、出資金、長期延滞債権など		
流動資産	225億円	←196億円（29億円増）
現金・預金、財政調整基金、市税未収金など		
うち歳計現金	98億円	←79億円（19億円増）
繰延勘定	3億円	←3億円（－）

計　4,661億円 ←4,649億円（12億円増）

負債　1,996億円 ←2,020億円（24億円減）

普通会計の借入金に、市民病院や下水道事業の借入金などが加わっています。

純資産　2,665億円 ←2,629億円（36億円増）

現世代が既に負担して、支払が済んでいる正味の資産です。市全体の57.2%を占めています。

計　4,661億円 ←4,649億円（12億円増）

市全体の行政コスト計算書

国民健康保険や介護保険など、市が行う福祉目的事業の中には特別会計で行われるものも多いため、普通会計ベースの行政コスト計算書と比較して、移転支出的なコストである社会保障給付の割合が高くなっています。

経常行政コスト（A）　1,437億円 ←1,387億円（50億円増）

【内訳】

人にかかるコスト	188億円	←188億円（-）
職員の給与・退職手当など		
物にかかるコスト	367億円	←366億円（1億増）
物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など		
移転支出的なコスト	837億円	←787億円（50億円増）
国民健康保険事業や介護保険事業などでの社会保障給付、各種団体への補助金など		
その他のコスト	45億円	←46億円（1億円減）
地方債の利子など		

経常収益（B）　484億円 ←470億円（14億円増）

使用料や手数料などに加え、市民病院で支払う医療費、国民健康保険税、介護保険料なども含まれます。

純経常行政コスト（A）－（B）　953億円 ←917億円（36億円増）

市全体の資金収支計算書

各企業会計、特別会計も含めた平成24年度中の市全体の現金の動きを示しています。

期首（23年度末）資金残高　79億円 ←72億円（7億円増）

当期収支　19億円 ←7億円（12億円増）

【内訳】

経常的収支	221億円	←244億円（23億円減）
公共資産整備収支	△39億円	←△66億円（27億円増）
投資・財務的収支	△163億円	←△171億円（8億円増）

期末（24年度末）資金残高　98億円 ←79億円（19億円増）

市全体の純資産変動計算書

市全体での純資産（正味の資産）が、平成24年度中にどのように増減したかを示します。平成24年度末の市全体の純資産残高は36億円増加しています。

期首（23年度末）純資産残高　2,629億円 ←2,507億円（122億円増）

当期変動高　36億円 ←122億円（86億円減）

【内訳】

純経常行政コスト	△953億円	←△917億円（36億円減）
一般財源等	996億円	←1,046億円（50億円減）
その他	△7億円	←△7億円（-）

期末（24年度末）純資産残高　2,665億円 ←2,629億円（36億円増）